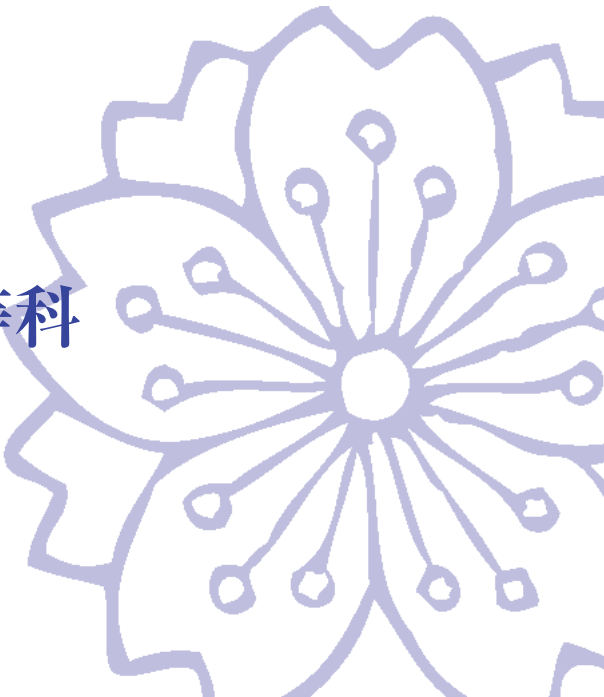




2025年 入学試験問題 (縮小版)

一般生A入試
一般生B入試
帰国生入試

学習院女子中等科



試験科目と時間割・配点

一般生A入試・一般生B入試

科目	時間	配点
国語	50分	100点
算数	50分	100点
理科	30分	60点
社会	30分	60点
合計		320点

帰国生入試

科目	時間	配点
作文 〔日本語または英語〕	50分	80点
国語	40分	100点
算数	40分	100点
合計		280点

〈参考〉

2025年A入試 合格者最低点218点（68.1%）

2025年B入試 合格者最低点236点（73.8%）

出題の方針と勉強の仕方

学習院女子中等科の入試問題に対する考え方

本校の入学試験は、記述式の問題を多く出題しています。そして、採点する際には、時間をかけて答案を吟味し、その思考過程を丹念にたどっていきます。この出題の形式は、思考過程を重視する学習院女子中等科・女子高等科の教育を反映したものです。

本校での学習は常に表現することを念頭において行われています。受身の学習には限界があります。私たちは、得た知識を自分の問題としてとらえなおし、それを表現することによって学習していきます。表現できないことは真に身についたとはいえません。そして、基礎的な知識を身につけた上で、自分で考えさらに深め応用していく態度と能力こそが重要です。それを周囲の方々や社会に発信し、その反応によって再度周囲の方々や社会から学ぶという循環により、学習は深みをましていきます。

学校や日常生活の中で、「なぜ」・「どうして」・「どうなっているの」ということを大切にし、その疑問を自ら調べたり、先生や家族に質問し、解こうとする姿勢で勉強したことは、自分の知識として身につけていきます。ただ覚えるだけを目ざしても身につけません。主体的に学ぶということが自分を磨いていくことになります。

このようなことから、入学試験においても、自分のことばで説明する問題を出題し、受験生が考えた過程を読み解き評価するようにしています。たとえ正答に至らなくても、考える過程に対しても評価をしていますので、正確な実力を判定することができると考えています。この採点方法では、些細なミスが大きな影響を与えるということがないので、受験生もののびのびと力を発揮することが可能であると思います。

このような入試問題に対する本校の姿勢は、以前から継続して行っているものです。

国語 出題の方針と勉強の仕方

例年、比較的長い文章を読解し、記述形式で答える問題を出題しています。それは問題文を正確に読み取り、自分で考え、自分の言葉で過不足なく分かりやすい文章にまとめる力があるかどうかをはかるためです。

問題は、一問一問丁寧に解いていくことで、文章を読み解き、理解できるように作成しています。このことを意識して、取り組むとよいでしょう。

問題文を読むときは、ひとつひとつの表現に注意し、文の流れを把握して、勝手な想像や思いこみなどをまじえず、内容を正確に読み取るように心がけましょう。また、問題（問い）がどのような答えを求めているかをつかむことも大切です。求めていることからずれている解答は、それ自体は筋の通った文章であっても正答にはなりません。

答えを書くときは、読み手に正確に伝わるようにわかりやすく書くことが必要です。主語がいつのまにか代わったり、主語と述語の関係が乱れたりしては正確に伝わりません。主語をはっきりさせ、ねじれない文を普段から書くようにしましょう。書き言葉と話し言葉は違います。書き言葉には、表情やその場の状況という支えがありません。何をどう書けば伝わるかを予想して書きましょう。

出題される文章は、物語文もあれば、随筆もあれば、説明文もあります。普段から、好きな文章だけでなくさまざまな文章に慣れ親しんでおくことが大切です。また、自分の意見を書いて、誰かに読んでもらおうとよいでしょう。果たしてわかってもらえるでしょうか。こうした経験を積み重ねることで、相手に伝わる文章が書けるようになります。

漢字は、特徴を意識して勉強しましょう。漢字には、色々な特徴があります。その一つに、同音異義語が多いことがあります。漢字の書き取りでは、そこが問われることがあります。漢字そのものを知っていても、言葉の意味がわかっていないと正解が書けません。漢字の問題は、言葉の意味の問題でもあるのです。それを意識して勉強しましょう。

算数 出題の方針と勉強の仕方

計算力、図形に対する洞察力、論理的思考力、数学的直観力、それらを的確に表現する力を問う問題を出題しています。採点に際しては、答えを導く途中経過を重視し、丁寧に答案を見ています。考え方や式が正しければ加点し、答えが合っていても、考え方が間違っていれば評価しません。

計算力については、毎日の計算練習が大切です。時間を計って練習し、正確さと速さを身につけてください。図形については、日頃からいろいろな問題に親しみ、慣れておくとういでしょう。その結果、柔軟な発想力が養えます。コンパスや三角定規を使って作図することにも慣れておきましょう。

論理的思考力と数学的直観力は、さまざまなタイプの問題を、数多くじっくりと解くことにより伸びていきます。わからない時にすぐ答えを見てしまったり教えてもらったりしたのは、力つきません。まずは問題文からわかることを書き出し、手を動かして解き始めることです。何となく解くのではなく、一段階ずつ根拠をもって解き進めてください。一つの方向から考えても解けないときは、別の方向からも考えてみるようにしましょう。時間はかかりますが、考えている過程で力がついていくのです。たとえ途中でしか解けなくても、自分で考えてから、わからないところを教えてもらうようにしましょう。そして、考え方に曖昧さが残らぬよう、きちんと理解しておくことが大切です。

普段から、問題を解くとき、自分の考え方、解き方がほかの人に伝わるように書く練習をしておきましょう。途中の式、計算を書くだけでなく、考え方を、文章や図、表、グラフなどを用いてわかりやすく表現することも必要です。整理してきちんと書くことにより、理解がいつそう定着します。答案は自分がどれだけ解っているかを採点者に示すものですから、丁寧な字でしっかりと書くようにしてください。

理科 出題の方針と勉強の仕方

理科の総合的な力をみるために、物理・化学・生物・地学の全分野から出題しています。小学校の学習を基礎としながら、身のまわりの自然現象に、日頃からいかに注意深く目を向けているかという観点を大切にしています。さらに、その現象がなぜ起きるのかという「疑問をもつ力」、そしてそれを「解決する思考力」がいかに養われているかを問う出題をしています。

内容としては

- ・教科書でよく扱われている実験（生物、物理、化学分野）や観察（地学、生物分野）において考える問題
- ・日常生活で誰もが体験するさまざまな現象をもとに、与えられた条件下で起こることを推論し、論理的に説明する問題

- ・身近な生き物の季節ごとのうつりかわりや、その生態について考える問題

などです。これに対して、日頃から以下のような点に留意して学習して欲しいと考えています。

- ・理科的なものの見方や考え方ができるよう、日常生活で経験できる事物に幅広く関心を持つこと
- ・日常生活での体験を簡単な説明文で表現すること
- ・基本的な事柄を理解し、簡単な説明文で表現すること
- ・題意にあった図を描いて、自分で考える習慣を身につけること
- ・数値をグラフ化したことにより、何が分かるのかを常に考えながら学習すること
- ・知識をもとに、自分の推論について論理的に説明すること

社会 出題の方針と勉強の仕方

社会では、歴史・地理・公民の三分野についてほぼ均等に出題しています。様々な時代や地域そして現代の社会に関する基礎的な理解を土台に、自分自身の目で社会を見つめようとする姿勢を求めています。そこで、各分野の基本用語をバラバラに覚えるだけでは答えられない、三分野のつながりを意識した問題、さらに時事的な問題を出題しています。多くのことがらを関連づけながら理解し、社会的なできごとについて、自分や身近な人の立場に引きつけて考える習慣を身につけましょう。自分の頭で考えて、自分の言葉で説明する力を養っていくことが大切です。そうした力を試すために記述問題を出題しています。

歴史的分野については、日本の歴史について各時代の特徴をつかんだ上で、全体の流れを理解することが大切です。日頃から、重要な内容を年表や図の形で整理して学習する習慣をつけてください。法律や制度の成り立ちを時代の流れに沿って整理し、同時代のできごとや人物を結びつけることで、その時代に生きた人々に近づいてみましょう。

地理的分野については、地名や産物などの基礎的な知識の積み重ねが大切です。日頃から地図帳や統計資料を活用しながら、自然条件や産業面、人々のくらしなどを結びつけて地域の特徴をつかみましょう。地理では、「どこで」「何が」「どのくらい」を示す分布図を重要視します。そして「なぜ」そのような分布になるかを考察します。白地図を利用して、学習したことがらを地図の上でまとめましょう。

公民的分野については、日頃から疑問を持ってニュースや新聞記事などの報道を見ていく姿勢が大切です。その際に、歴史・地理・公民の基礎知識を使って、「なぜ、そのような問題が起きているか」を追究しましょう。家庭でも時事問題を日常的に取り上げ、身近な話題として関心を高めていくことが大切です。時事問題で得た知識と社会科の用語とを重ね合わせながら、より深く学習をしてほしいと考えています。

作文 出題の方針と勉強の仕方

作文は50分、80点満点、使用言語は日本語と英語のどちらかとなります。

作文は論理的な部分と独創的な部分の二つが評価されます。まず論理的な部分としては、問題文をよく読み、書かなければいけない条件をしっかりと押さえ、不足無く書くことが大切です。問題文をよく読まずに書き始めると、必要な条件を見逃したり、書き忘れたりするので、まずは問題文を丁寧に読み、問われている内容をしっかりと把握しましょう。また、いきなり書き始めるのではなく、全体の構成や文章の展開の方法を考えてから書き始めるようにしましょう。

次に独創的な部分としては、自由な発想で独自性に富んだ内容となっているか、表現豊かに書けているか、さらには自分の体験に引きつけて書けているかなどが評価の対象になります。作文はその人の人間性やものの考え方をよく表します。作文を通して自分の人柄や想いが伝わるように、自分にしか書けない作文を心がけましょう。

限られた時間の中で何を書くか考え、最後まで書き切るためには、普段から文章を書くことに慣れ親しみ、新聞や本で良質な文章にたくさん触れておくことが大切です。直前に慌ててその場しのぎの準備をするのではなく、普段から文章に親しみ、豊かな言語生活を送ることが望まれます。

英語で書く場合も、「表現力」と「質」が問われるのは言うまでもありません。書かれた文章から、受験生の英語力も同時に測ります。よりよい文章を書くには、上記にあるようなことに気を付けることは英語でも同じです。ですが、文法のみこだわってはいは、のびのびと自分の表現したいことを書けるわけではありません。自分が海外生活によって培ってきた英語を使って、読み手に伝わりやすい文章を書くように心がけてください。内容が正しいか間違っているかが判断基準ではありません。与えられたテーマに沿いながら、自分の経験なども踏まえ、自分らしさが発揮できる内容であることが望ましいと考えます。